

ココにも歴史があった

ふかがわ ひび や こうえん こうさてん 深川？日比谷公園？交叉点

かんとうだいしんさい えはがき ～関東大震災の絵葉書2～

ぜんかい ひ つづ たいしやう はっさい はっこう しょうかい
前回に引き続き、大正12年9月1日の関東大震災の発災後に発行された絵葉書をご紹介します。

こんかい きどうじやう たてももの くず お でんちゆう たお どうきやうしでん ふつう じやうきやう
す。今回は、軌道上に建物が崩れ落ち、また電柱が倒れこみ、東京市電が不通になった状況を

とらえた絵葉書2点です。いずれも同一の写真を使用していますが、①は「深川交叉点」、②は「日

比谷公園交叉点」というように場所がまったく違う地名を印字しています。参考図版の写真集

『教育資料写真通信』に同じ写真が掲載されており、「日比谷（公園）交叉点」が正しいことが

わかります。





江東区教育委員会

点又交川深ルタ憺憺

(災震大都帝)

① 絵葉書「^{ていとだいしんさい} (帝都大震災) ^{さんたん} 惨憺タル ^{ふかがわこうさてん} 深川交叉点」

発行時期：大正 12 年 (1923) 9 月以降

発行元：不明



江東区教育委員会

点又交園公谷比日

現實狀慘災震大市京東

② 絵葉書「^{とうきょうしだいしんさいじっきょう} 東京市大震災実況 ^{ひびやこうえんこうさてん} 日比谷公園交叉点」

発行時期：大正 12 年 (1923) 9 月以降

発行元：不明

(分數前失焼) 狀慘の近附點又交谷比日



江東区教育委員会

電車唱歌の所謂電車の路は十文字なる日比谷交叉點、其處に平常ならば交通巡查

が止れ進めの信號で目を眩して居る交通頻繁の同地点も震災に猛火に焼燬たる

原野と一變してしまつた寫眞は猛火に包まれる數分前の破壊家屋と乗捨ての電車

さんこう ひびやこうさてんふきん さんじょう しょうしつまえすうぶん
【参考】日比谷交叉点附近の惨状 (焼失前数分)

きょういくしりょうしゃしんつうしん だい ごう
『教育資料写真通信』第116号

りんじぞうかん だいしんさいきねんごう
(臨時増刊) 大震災記念号

発行日：大正12年(1923)9月25日

たいしょうつうしんしゃ どうきょうしこうじまちく
発行元：大正通信社(東京市麹町区)



でんしゃしょうか いわゆるでんしゃ みち じゅうもんじ ひびやこうさてん そのどころ へいじょう
「電車唱歌の所謂電車の路は十文字なる日比谷交叉点、其所に平常ならば

こうつうじゅんさ とま すす しんごう め くらま い こうつうひんぱん どうちてん しんさい
交通巡查が「止れ進め」の信号で目を眩して居る交通頻繁の同地点も震災で

さんたん げんや いっぺん しゃしん もうか つつ すうぶんまえ はかいおおく
惨憺たる原野と一變してしまつた寫眞は猛火に包まれる數分前の破壊家屋と

のりす でんしゃ
乗捨ての電車

※旧字は新字に変換しています。

かんとうだいしんさい えはがき こんかい てんじひん どういつしゃしん ちが
関東大震災の絵葉書には、今回の展示品のように同一写真で違うタイ
トル（地名）を印刷しているケースが多々あります。また、被災した町
の写真に煙などを加えた写真も多く見受けられます。

みやたけがいこつ ちょしょ 「しんさいがほう」 だいにさつ たいしょう はっこう
宮武外骨の著書『震災画報』第二冊（大正12年10月10日発行）に
よれば、震災関係の絵葉書が「震災十日過ぎから二十日頃までに（中略）
何百種というほど」大量に発行されましたが、その中にはこのような絵
葉書が含まれていたようです。

【参考文献】

沼田清「[資料]関東大震災写真の改ざんや捏造の事例」

『歴史地震』第34号 歴史地震研究会 2019年

沼田清「関東大震災100年③煙と雲にみる改ざんと捏造」『メディア展望』No.740

公益財団法人新聞通信調査会 2023年8月